

1999・12・17～2000・3・5

動

物

# たちの姿

— その種々相の面白さ —

休館日 || 月曜日（休日の際は翌日）・12／29・1／4

開館時間 || 10時～16時30分「入館は16時まで」

入場料 || 大人700円 大学生500円 小中高生300円

## 大倉集古館

東京都港区虎ノ門2-10-3

〔交通案内〕

神谷町駅より徒歩8分

虎ノ門・溜池山王駅より徒歩10分  
ホテルオークラ本館正面玄関前

03-3272-8600 NTTハローダイヤル



大倉集古館  
THE OKURA SHUKOKAN MUSEUM

The Okura Shukokan Museum

## ごあいさつ

例えば釈迦の入滅の様子を表した「仏涅槃図」には、横たわる釈迦の周囲に多種多様の動物が描き込まれています。そこにみられる象や馬、虎、鶴から蛇、亀、小さな虫にいたるまでが、人々とともに釈迦の最期を嘆くさまは、画面の構成においても重要な役割を担い、より深い悲しみを觀る者に感じさせてくれます。また「春日鹿曼荼羅図」では、信仰礼拝の対象としての鹿が、神鏡を伴って登場します。他にも、長い手を伸ばして躍動する猿たちを闊達に描いた狩野探幽筆「松竹に鶴・柳に猿図」や、駒駄の俑、狐や猿の狂言面など、とかく難解なものと思われがちな古美術品でも、角度を変えてご覧になれば、このように身近で親しみやすい一面が再発見できると思われます。

さらにこの大倉集古館の建物自体にも、いくつもの不思議な空想動物の姿が見られます。まず屋根の両端には、鮓の原形といわれる吻が乗せられ、大きな口を開けて氣を吐き、それが屋根の棟を飾っています。二階の天井や柱では浮き彫りにされた龍や怪魚が館を守り、階段の親柱にも五体の愛嬌ある狛犬が座っています。これらはみな、設計者である伊東忠太博士の趣向が反映された、独特的な装飾といえましょう。絵画・能や狂言の装束・金工品そして建物と、さまざまな場面を闊歩する動物たちの造形を、通常の美術鑑賞とは少し違った眼とご気分で、お楽しみいただければと存じます。



## — 主な展示品 —

- 仏涅槃図(重要美術品), 空也上人絵伝
- 春日鹿曼荼羅図, 樹下の宮図
- 虫太平記絵巻, 百鬼夜行図
- 松竹に鶴・柳に猿図 狩野探幽筆
- 雁図 円山応挙筆
- 暖日 橋本関雪筆
- 狂言面「猿」「狐」
- 能装束「紅地蝦夷錦雲竜模様絆切」
- 自在置物「蝶」「鯉」「蟹」「蟻」
- 鳳凰獅子八稜鏡 ほか